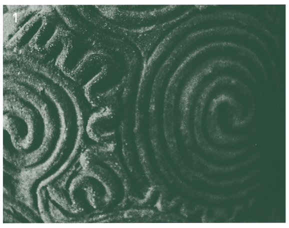
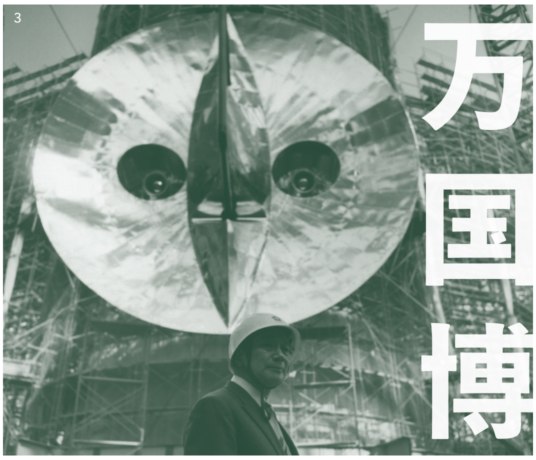
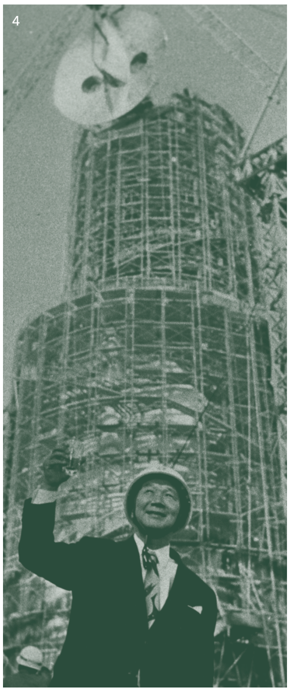

1

2


3


4

5

6

7

8

万国博に賭けたもの

岡本太郎と太陽の塔

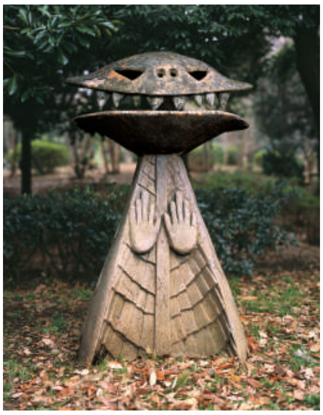
Okamoto Taro
and
Tower of the Sun

2025
4｜26［土］▶7｜6［日］

川崎市 岡本太郎美術館
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

主　　催｜川崎市岡本太郎美術館
協　　力｜日本工業大学 杉森研究室、島田安彦コレクション
開館時間｜9:30〜17:00（入館は16:30まで）
休 館 日｜月曜日（4月28日、5月5日を除く）、5月7日（水）、5月8日（木）
期間中展示替えあり（前期：4月26日（土）〜6月1日（日）・
後期：6月3日（火）〜7月6日（日））
観 覧 料｜一般900（720）円、高・大学生・65歳以上700（560）円
中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体料金

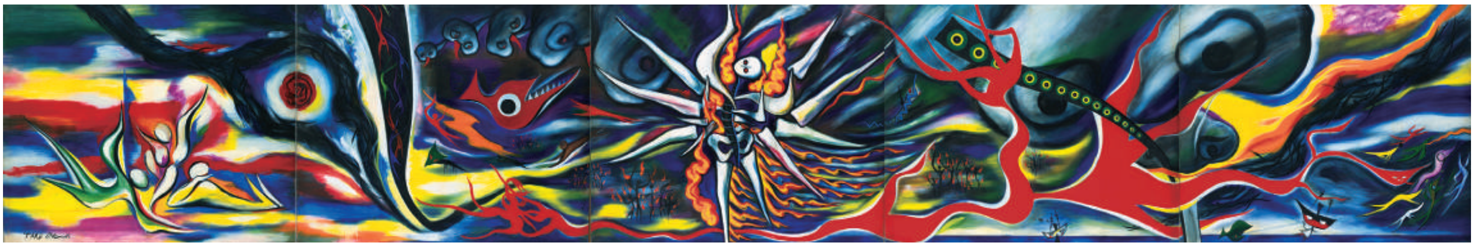
1.岡本太郎撮影《縄文土器 模様（井戸尻考古館/長野県出土）》（1974年）／2.保税倉庫に集まった民族資料を視察する岡本太郎（1969年）／3-4.黄金の顔鎮座式での岡本太郎（1969年）／5.メキシコでの《明日の神話》制作中の様子（1968年）／6.岡本太郎撮影《なまはげ 男鹿市芦沢》（1957年）／7.岡本太郎と「太陽の塔」原型（1969年）／8.メキシコのコアトリクエ像贈呈式（1970年）／9.岡本太郎《太陽の塔》（1970年）／すべて当館蔵

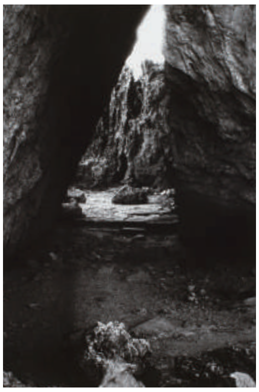

1

2

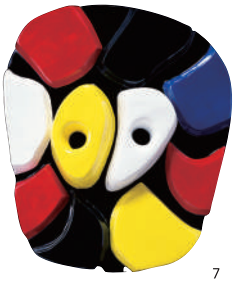
岡本太郎と太陽の塔
Okamoto Taro and Tower of the Sun
万国博に賭けたもの

3


4


5

6


7

「近代主義に挑む。何千年何万年前のもの、人間の原点に帰るもの。人の眼や基準を気にしないで、あの太陽の塔を作ったんだ。」*

1970年、大阪にて、「人類の進歩と調和」をテーマとする日本万国博覧会が開催されました。岡本太郎が会場中心に据えた「太陽の塔」は、建設当時、モダニズムと相容れない独特の外観で賛否を巻き起こしました。また、内側の構成も「人類の進歩と調和」に異議を唱える岡本の思想が大いに反映されたものでした。

塔の地下空間は「過去・根源の世界」を表現するためにいくつかのゾーンに分かれていました。その1つ、「いのり」の空間では、人類の心の奥深くに通底するものとして、世界各地から収集された仮面や神像などの民族資料が展示されました。原初的で神聖な祭壇を想起させるこの展示プランも、岡本太郎の発案です。彼はパリで暮らした20代にパリ大学で民族学を学び、人類博物館の空間でマルセル・モースの教えを受けました。また帰国後も、日本各地の祭礼・神事の取材と執筆活動によって思索を続けました。

本展は、民族学を源泉とし、国内の取材旅行を通して形成された岡本の思想から「太陽の塔」を探るいわば「入門編」の展覧会です。彼が縄文の発見後、フィールドワークで撮影した写真をご紹介するほか、「太陽の塔」の制作記録や同時期の作品を通して塔の内外が形作られた過程をたどります。また、国内外の仮面や神像等を展示し、岡本のいう「今日の文明が失ってしまった人間の原点」*に迫ります。

岡本は、ただの「お祭り」と、人間の誇りと生きる歓びを爆発させる神聖な「祭り」を区別し、万国博は後者であるべきと考えました。「太陽の塔」を万国博の中心に据えることで「祭り」の実現に賭けた岡本の挑戦と、そこに至るまでの道程を、会場にて是非ご覧ください。

＊岡本太郎『にらめっこ問答』集英社、1980年

8

9

1.岡本太郎《ノン》(1970年)／ 2.「太陽の塔」を試作する岡本太郎(1967年)／ 3.神像(ガッラ)(収集地：パプアニューギニア) 武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室蔵／ 4.岡本太郎《明日の神話》(1968年)／ 5.岡本太郎撮影《斎場御嶽》(1959年)／ 6.岡本太郎撮影《土偶(神奈川県横浜市出土)》(1956年)／ 7.岡本太郎《マスク》(1970年)／ 8.保税倉庫に集まった民族資料を視察する岡本太郎(1969年)／ 9.マスク(収集地：マレーシア) 昭和女子大学光葉博物館蔵　※所蔵の記載がないものは当館蔵

関連イベント

「太陽の塔・ふしぎ発見! スタンプラリー」

小さい子ども向けのスタンプラリー型ワークシート。「太陽の塔」のお腹の中には不思議がいっぱいです。展示室内のスタンプを押して「太陽の塔」をもっと知ろう!

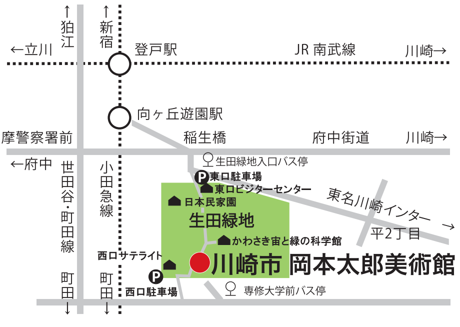
配付期間：2025年4月26日(土)～7月6日(日)
場所：企画展示室　料金：要観覧料
対象：どなたでも

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：6月1日(日)、6月28日(土)
　各日とも14：00～
会場：企画展示室
料金：無料(要観覧料)

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。
https://www.taromuseum.jp

同時開催
[常設展]オカモト・ア・ラ・モード おしゃれの法則
2025年4月17日(木)～7月13日(日)



[交通] ●小田急線向ヶ丘遊園駅 —南口から徒歩17分 —南口から市バス3分(5番のりば・溝口駅南口行・溝19系統(1時間に1～2本))「生田緑地入口」下車、徒歩8分 —南口からタクシー 4分(日本民家園前下車)徒歩5分 —北口から小田急バス10分(2番のりば・専修大学前行・向10系統(1時間に2～6本))終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路(通行可能時間8：00～17：30)を通って徒歩6分 ※向ヶ丘遊園発のバス停の位置情報は区画整理の影響で変更になっている場合があります。事前にご確認ください。 ●車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場(有料)をご利用ください。

川崎市 岡本太郎美術館
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki
〒214-0032　川崎市多摩区枡形7-1-5生田緑地内
Tel.044-900-9898　https://www.taromuseum.jp

HP　X　Facebook　Instagram